

女性研究者にチャンス



黒子弘道

奈良女子大学生活環境学部
[630-8506] 奈良市北魚屋西町
教授, 工学博士.
専門は固体核磁気共鳴, 高分子構造, 計算化学.
kurosu@cc.nara-wu.ac.jp
www.nara-wu.ac.jp/life/lics/tas_i/kurosu/

index-jp.html

今回、私がこの「仕事と私事」を執筆することになったのは、ある先生から「君は女子大に勤めているのだから男女共同参画社会について書くことがあるだろう。」と言われたことがきっかけです。奈良女子大学という限られた範囲でのことしかわからない・当てはまらないことかもしれませんが、私を感じたことを書きたいと思います。

まず、これから大学で研究・教育職を探している女性の場合、とても有利な環境にあります。それは、女性教員と男性教員の比率を一定の値までに引き上げ維持しなくてはならないため、新規に公募する場合、男女雇用機会均等法が施行されている現在でも特定の条件下では女性だけを対象に大学教員を公募することが可能であったり、男性候補と女性候補がほぼ同等の評価であった（実はこのほぼ同等が曲者で何をもってほぼ同等とするかは全く自由裁量となっている）とすると女性を選ぶと公募要領に書いてある場合もあり、実際、そのような公募はかなり増えています。達成すべき教員の男女比率は、これから研究・教育職に就きたい人達の男女比率よりも女性の割合が高い比率に設定されている場合がほとんどであり、これから研究職に就きたいと思っている女性にとって有利な環境にあると言えます。もちろん、この状況がこの先長く続くかはわかりませんが、少なくとも数年長ければ十数年はこの

ような措置が取られるのではないかと思います。

また、奈良女子大学では平成22年度に文部科学省の「女性研究者養成システム改革加速事業」に採択され、女性研究者に対するさまざまな援助が行われています。たとえば採用1年目にスタートアップ研究費として150万円、2年目、3年目に研究費として100万円が、通常の研究経費と別に本人に支援され、「助教」として採用された女性研究者には3名以上の教員によるメンターチームを組織して、研究進捗状況の把握とともに適切な指導・助言により研究スキルアップの加速を目指してもらうことができます。また、理・工・農系の女性研究者には、この事業の養成研究者であるかにかかわらず、「研究スキルアップ経費」として、学内募集により、国際学会参加経費（旅費・参加費）や国内学会参加経費、学会誌投稿のための英語論文校閲経費の支援を受けることができます。また、他大学の女性若手研究者との交流も活発に行える環境にあります。

これらの細かな条件は変わっていくと思いますが、それでも男性研究者にはないメリットがあり、これからアカデミックを目指す女性の方々にはぜひ頑張ってくださいと思います。おそらく見えない障壁などは残念ながら残っているかもしれませんが、このようなメリットを活かして活躍していただくことを願っています。